

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	環境局
----	-----

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	循環型の生活様式・産業構造への転換
	取組みの方針	総合的・先導的な廃棄物対策の推進

担当局 / 総務担当課名	環境局	総務課
連絡先	582 - 2182	

21年度計画

-3-(1)-

施策名	産業廃棄物排出量の減量化
-----	--------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市内で発生する産業廃棄物の減量化及び適正処理を図り、資源循環型社会の構築に資する。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	総合的・先導的な廃棄物対策の推進

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度		目標値	
	排出事業者や処理業者を対象とした講習会の開催(参加人数)	年度	平成21年度		年度	平成25年度	年度	平成25年度
	講習会の開催により、産業廃棄物の減量化及び適正処理に向けた効果的な情報発信を行うことができるため。	現状値	1,279人	実績	725 人	目標値	1,300人	
				達成度	56.7 %			
		年度		計画		年度		
		現状値		実績		目標値		
		年度		計画		年度		
		現状値		実績		目標値		
		年度		計画		年度		
		現状値		実績		目標値		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	559 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
				うち一般財源	559 千円	180 千円		

## 局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	<b>B</b>	講習会周知文の配布数に対して約6割の参加者があり、産業廃棄物の減量化及び適正処理に関する潜在的なニーズに対応した事業となっている。 今後は、目標年度に向けて、参加率を向上させていくことが課題。
		参加率を向上させる取組みを強化しつつ、現状のまま施策を継続することが適当である。
今後の局施策の方向性		

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

## 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

施策では、産業廃棄物の減量化を目指しており、そのために講習会を開いているのですから、指標の設定にあたっては、「講習会への参加人数」だけでなく、講習会へ参加した企業がどのように減量化対策等を行ったのかという視点を加えればより良いものになると考えます。また、講習会の参加率の向上が課題であるにも係らず、事業は「現状のまま進めることが適当」としており、事業の見直しや事業構成の変更等についても検討する必要があるのではないかと考えます。

施策名 産業廃棄物排出量の減量化

構成事業名	事業費			事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]					21年度			21年度
産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業			559 千円	180 千円	裁量的経費			ウ	
事業費のうち一般財源			559 千円						
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円	千円					
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円	千円					
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円	千円					
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円	千円					
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円	千円					
			千円	千円					
事業費のうち一般財源			千円	千円					

局施策全体のコスト	21年度		
	事業費	人件費(目安)	
	559 千円	180 千円	
施策全体の事業費のうち一般財源	559 千円		

局施策の  
21年度評価

**B**

【局施策評価】  
A: 大変良い状況にある  
B: 概ね良い状況にある  
C: 概ね良い状況とまでは言えない  
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

担当局/課	環境局	産業廃棄物対策室
連絡先	582 - 2178	

基本計画	柱	環境を未来に引き継ぐ
	大項目	循環型の生活様式・産業構造への転換
	取組みの方針	総合的・先導的な廃棄物対策の推進
	主要施策	産業廃棄物排出量の減量化

関連計画	
事業期間	平成10年度～
経費区分	裁量的経費

-3-(1)-

事業名	産業廃棄物資源化・減量化技術等支援事業
-----	---------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州市内で発生する産業廃棄物の減量化及び適正処理のため、排出事業者や処理業者を対象とした講習会を開催する。			
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	産業廃棄物排出量の減量化	成果	排出事業者や処理業者を対象とした講習会の開催(参加人数)

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状									
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		講習会の開催						計画	1,279 人	年度	平成25年度
		講習会の開催により、産業廃棄物の減量化及び適正処理に向けた効果的な情報発信を行うことができるため。(計画値は、市内に所在する多量排出事業者及び許可処理業者に対する講習会周知文の配布数)						実績	725 人	内容	1,300人
								達成度	56.7 %	年度	
								計画		内容	
								実績		内容	
	コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	559 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
								うち一般財源	559 千円	180 千円	
単年度計画											

## 【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。	産業廃棄物の発生量は国内の景気動向に大きく影響を受けるため、実施結果について、目的に対する進捗評価を行うことは難しい。なお、講習会周知文の配布数に対して約6割の参加者があり、産業廃棄物の減量化及び適正処理に関する潜在的なニーズは非常に高いものと考えられる。
------	-------------------------------------	--

## 【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4:高い 3:やや高い 2:やや低い 1:低い	3	講習会周知文の配布数に対して約6割の参加者があり、産業廃棄物の減量化及び適正処理に関する潜在的なニーズは非常に高いものと考えられる。事業の有効性は高いと考える。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。		4	約60万円の経費で約700人の事業者に必要な情報を伝達できており、事業の経済性・効率性は高いと考える。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。		3	講習会周知文の配布数に対して約6割の参加者があり、産業廃棄物の減量化及び適正処理に関する潜在的なニーズは非常に高いものと考えられる。事業の適時性は高いと考える。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすることはできないのか。		4	産業廃棄物に関する行政事務は、現在のところ所管自治体以外の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当だと考える。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。	ウ	参加率を向上させる取組みを強化しつつ、現状のまま施策を継続することが適当である。	